

【国語・小2・「そうぞうして、音読げきをしよう」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 (1)ク
- (思、判、表等) ○場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像することができる。 CI
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 C才
- (学びに向う力等) ○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

考えの視覚的共有と表現力の向上を意識した授業

【つかむ】

学習の見通しをもち、物語の大まかな内容を把握する。

1年生に音読劇で【お手紙】のお話をしようかいしよう。

【追求する】

登場人物の行動と気持ちを想像し、音読の仕方を考える。

【まとめる】

グループごとに音読劇で読みたい場面を練習し、1年生に発表する。

事例の概要

- 児童の書いたワークシートを電子黒板に映しながら、音読の発表をする。
- ICT端末で互いの音読の様子を撮影し、音読練習をする。

【事例におけるICT活用の場面①】

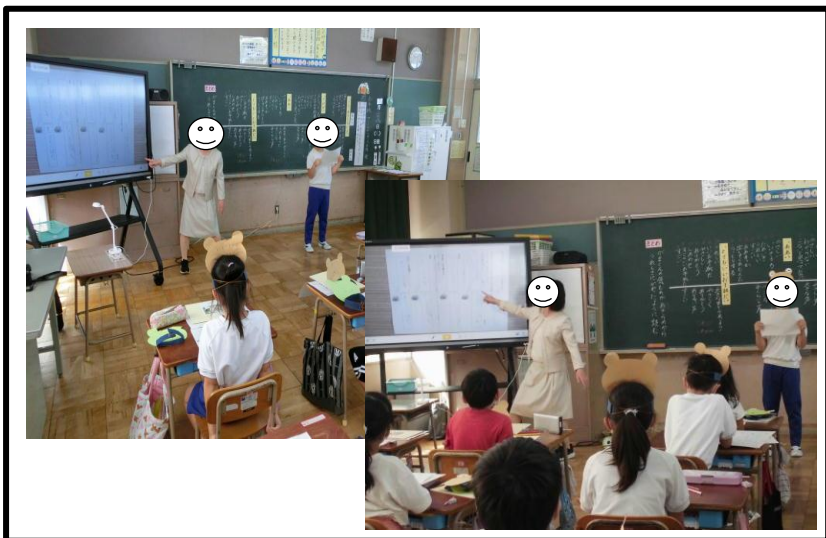
- ICT端末で撮影したワークシートを電子黒板に映し、登場人物の気持ちと音読の仕方を確認してから、音読の発表をする。

【事例におけるICT活用の場面②】

- ICT端末で互いの音読の様子を撮影し、自身の音読の仕方を振り返ったり、互いの良いところを伝え合ったりする。

【国語・小2・「そうぞうして、音読げきをしよう」②】

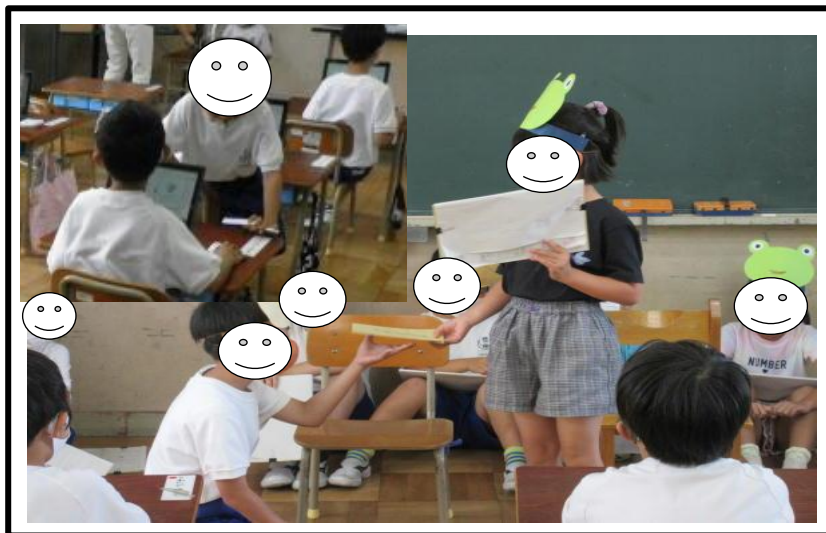
【事例におけるICT活用の場面①】



- 書画カメラで撮影したワークシートを電子黒板に映し、登場人物の気持ちと音読の仕方を確認してから、音読の発表をする。
- 児童は、視覚的かつ短時間に友達の考えを知ることができる。
- 音読を聞きながら、読み手の考えを確認することができる。
- 登場人物の気持ちと音読の仕方、どんなところに気を付けて聞いたらいいかを全体共有してから、音読の発表をさせる。

【活用したソフトや機能】 ・書画カメラ ・電子黒板

【事例におけるICT活用の場面②】



- 互いの音読練習の様子を撮影し合い、よいところを伝え合ったり、改善点を見付けたりする活動をして、下学年に音読劇の発表をする。
- 自分の声を自分で聞きながら音読の様子を確認することで、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読をする児童が増えた。
- 何度も自分の声を自分で聞くことができる。
- どんなところに気を付けて聞いたらいいかを児童と共有する。

【活用したソフトや機能】 ・カメラ ・学習支援ソフト